

## かわさき区の宝物シート

宝物No.	かなどこ(ふくしまてっこうじょ)
5-6	<b>金床(福嶋鐵工所)</b>

エリア	中央地区	シーズン	
	旭港	日時	

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input type="checkbox"/> その他

宝物定義	<input checked="" type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input checked="" type="checkbox"/> 人物



金床と祭具一式が工場入口に鎮座している



現在では巨大な定盤がかつての金床の役割を担っている



写真提供：(株)福嶋鐵工所

所在地	川崎区港町10-18 福嶋鐵工所内
問い合わせ	(株)福嶋鐵工所
TEL	044-244-5111
FAX	044-211-3685
E-mail	
URL	<a href="http://www.fukutetsu.co.jp/">http://www.fukutetsu.co.jp/</a>
交通	京急大師線港町駅から徒歩5分



### 基礎情報

■福嶋鐵工所は、明治元(1868)年に川崎で創業し、鍛冶業(金属を打ちきたえて、いろいろな器具をつくる業)を始めた。当時、羽田や川崎大師付近で盛んだった木造船を造る際に用いる船釘(ふなくぎ)や鋸(かすがい)などの需要で潤うが、周囲に響く大きな槌音(つちおと)への配慮から、当初東海道沿いで創業した工場の場所を転々と変えながら、昭和10(1935)ねんに大師道に近い現在の地に落ち着いた。戦時中は海軍指定工場となり、川崎市上下水道送水管施設や味の素川崎工場製造設備建設に携わるなど、川崎の歴史とともに歩みながら近代鉄鋼業へと発展していった。所内には鍛冶業時代に使用されたドイツ製の金床(鍛冶や金属加工に用いる作業台)が大切に保存されている。

### 由来・エピソード

■創業者・福嶋与兵衛氏は江戸愛宕山下で刀剣・馬具類の武装品の製造販売を手がけていたが、弟が加わっていた彰義隊の敗北による難を逃れるため、川崎宿六郷川近くの東海道沿い(現在の旭町1丁目)に移住し、鍛冶業を始めたのが明治元年(1868)10月のこと。当時、羽田や川崎大師付近では木造船づくりが盛んとなり、そのための船釘やかすがいなどの大量の需要によって潤ったという。

■二代目亀太郎氏は厳父の志を堅く守り家業の発展に精を出し、そして三代目を継いだ婿養子の安五郎氏が養家のさらなる繁栄のため力を尽くした。大正初期に多摩川沿いに進出してきた鈴木商店(現・味の素)の川崎工場建設にあたって、工場で使われる生産機器の製造・修理などを一手に引き受けたのである。さらに大正12年(1923)関東大震災で施設倒壊など大きな損害を被った味の素工場の機械類修理に全力を傾け、味の素の復興に多大な貢献を果たしたといわれる。そして同年、社名を福嶋鐵工所と改称した。大正14年(1925)に完成した旧六郷橋の建設にも携わり、昭和10年(1935)には旭町から現在地の港町に本社工場を移した。安五郎氏は家業を鍛冶業から近代工場をもつ鉄工所へと発展させたのである。

■創業当初より、周辺に響く槌音が大きいことが悩みの種であり、転々と工場の場所を移し現在地に落ち着くまでに4回移転が行われたという。

■第二次大戦中は海軍の指定工場となり、川崎市の上下水道送水管敷設に携わるなど、福嶋鐵工所は地元創業で東海道、川崎宿、大師道などの歴史と共に歩み近代工場へと発展、現在に至っている貴重な存在である。

### 補足・その他

■ものづくりの企業にとって高度な製造技術に精通した熟練工の存在は不可欠である。大師出身で昭和26年(1951)に入社した石川精三郎氏は鉄、ステンレス、チタン等多種の金属の材質を熟知するとともに、溶接など周辺技能にも優れた熟練度の高い職人(製缶技能士)として「平成13年度かわさきマイスター」に認定された。

### 関連シート

- (1-1)川崎宿
- (1-17)旧六郷橋親柱(稲毛公園)
- (5-7)味の素(株)資料展示室
- (32-7)かわさきマイスター